

## 年頭教書



## 感謝と信頼の日々

（宣教の熱意の源）

## 大司教ヨセフ高見三明

年頭にあたって、長崎教区のすべての皆様に、新年のごあいさつを申し上げます。旧年中はさまざまな形で皆様方のご厚情をまわり、まことにありがとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて昨年6月30日、長崎の七つの教会を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に正式登録されました。7月には浦上四番崩れの旅の始まり150年、10月には牢屋の窄殉教150年を記念しました。いずれも先祖が貰いた固い信仰を物語る出来事です。わたしたちは、その同じ信仰をこれからも人々に伝えていかなければなりません。「出向いて行く教会」「宣教する弟子たちの共同体」であります。たいと思います（教区シノドス公式提言8）。フランシスコ教皇様は今年の10月を宣教月間とするよう全教会に通達されました。そこでわたしは宣教の意欲と熱意をかき立てるために、神様と人への感謝と信頼の心を共に大切にするよう呼びかけたいと思います。

## 一、神様への感謝と信頼

浦上四番崩れで捕らえられた高木仙右衛門は、役人に次のように語りました。「まだなき時より、天主がありて、天地万物をつくり、人間のはじめをつくりました。天主はわ

くして、砂の粒よりも多く、その果てを極めました。砂の粒よりも多く、その果てを極めました」と思つても、わたしはなお神様の中にいるのです（詩編139・13～14、17～18参照）。

聖書の中では、「神様は母親のよう

うにわたしを乳で養い、抱いて運び、膝の上

に深い信頼を寄せ、祈りから始まつて祈

奉る、あめん」。わたしたちの先祖は、万物の創造主である神様の前に自分がいることを深く自覚して礼拝し祈つていきました。神

様の意欲と熱意をかき立てるために、神様と人への感謝と信頼の心を共に大切にするよう呼びかけたいと思います。

二、互いの感謝と信頼

この信頼は、仙右衛門たちが唱えていた『おらしょ』の「朝の申上」の中でそのまま表現されています。「ばてる、ひりよ、すばりとさんとのみ名をもつて、あめん。天主の御まえにみをとめおきてをがむおらしょ。いかにいたつたつとき三つ」といふりとさんとのみ名をもつて、なにもなくして天地、日月、そのほかよろづのものをつくり給ひしわわれらのたゞ一つのござくしゃ御主と、つ、しんでうやまひをがみ

聖書の中では、「感謝」と「信頼」という言葉は、ほとんどの場合神様に対しても用いられています。まず神様への感謝と信頼があつて、人への感謝と信頼が成り立つということです。聖パウロは、キリスト信者になる恵みと彼らの努力のことで神様に感謝しています。聖パウロは、「今は罪から解放されて神の奴隸となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは永遠の命」（ローマ6・17、22）だか

らです。コリントの信者たちがエルサレムの信頼がなければそれを築き、失つたらそれ

は靴底だけで、まるでサンダルのようになつてゐるという。信者はザビエルの宣教の熱意に倣い、教会が人々を大切にし、奉仕を通して神の国のしるしなることができるように



カトリック長崎大司教区広報委員会

〒852-8113  
長崎市上野町10-34  
カトリックセンター内  
TEL 095-843-3869  
FAX 095-843-3417  
振替口座 01880-5-2699  
発行人 山田良秋  
印刷所 株式会社 藤本博英社

## 教皇さまの意向

- ・宣教
- ・日本

若者たちがマリアの模範に倣い、福音の喜びを世界に伝えることができるよう教会が人々を大切にし、奉仕を通して神の国のしるしなことができるようになります。むしろ神様に思いを馳せて、「富を築く力を与えたのは神様です」と考へて住み、財産が豊かになつたとき、「自分の力と手の働きで、この富を築いた」などと考へてはなりません。むしろ神様に思いを馳せて、「富を築く力を与えたのは神様です」と考へるべきです（申命記8・12～14、17～18参照）。神様は、水で地を潤し、太陽を注いで作物を実らせます。人は労働の喜びを味わい、当然のように神様に感謝します（詩編65・6～14、104・10～30）。ですから、「いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝」（エフェソ5・20）したいものです。

神様に對しては感謝すると同時に信頼すれらのまことの親でござる。この御親のほかには何も信じ敬うことはできません。またこの天主の十か条の御掻にもさわらぬことは將軍さまによくしたがえとありますれば、私の親よりいい伝えらるるには、天主よりほかのものを挙むな、また年貢をよく納め、公役もよく務めよ、とのことなれば、これらのこともよく務め、キリストはおかみ（幕府）に一揆をしたことあります。

この信仰は、仙右衛門たちが唱えていた『おらしょ』の「朝の申上」の中でそのまま表現されています。「ばてる、ひりよ、すばりとさんとのみ名をもつて、なにもなくして天地、日月、そのほかよろづのものをつくり給ひしわわれらのたゞ一つのござくしゃ御主と、つ、しんでうやまひをがみ

聖書の中では、「感謝」と「信頼」という言葉は、ほとんどの場合神様に対しても用いられています。まず神様への感謝と信頼があつて、人への感謝と信頼が成り立つということです。聖パウロは、キリスト信者になる恵みと彼らの努力のことで神様に感謝しています。聖パウロは、「今は罪から解放されて神の奴隸となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは永遠の命」（ローマ6・17、22）だか



今年の「平戸ザビエル祭」は4年に一度の平戸文化センターを会場にしての開催となつた。平戸の信徒、新聞折込を見たという一般の方も加わり、約700人が参加した。

今年のザビエル祭の実行委員会で内容を検討する中で、「皆で作り上げる行事」を目指し、各小教区が聖フランシスコ・ザビエルの宣教活動に倣い、取り組んだ証しを奉納しようということを決められた。

今年のザビエル祭のテーマは、「ザビエルのサンダル」。この10周年を記念して出された結城了悟師（イエズス会）の「いかに美しいことか、山々を行き廻り、良い知識を伝える者の足は」（52・7）を引用し、ザビエルが足を泥だらけにされ、血のにじむような思ひで福音を告げ、宣教者の系譜はザビエル以降もただが信頼すべき方だからです（詩編31・7・9）。主を畏れる人、主の戒めを深く愛する人、まつすぐな人、憐れみ深く貸し与える人、主に従う人は、悪評を立てられても恐れず、その心は固く神様に信頼しています（詩編112・1～7）。穏やかな心で信頼していることにこそ力があり（イザヤ30・15）、神様に信頼すれば確かに生かれ（歴代誌下20・20）、神様がよりどころとなつてくださいとあります（エレミヤ17・7）。そして神様に信頼するなら確信するようになります（二テモテ1・12）。

式後、「宣教や奉仕活動、巡礼に使用してザビエルの板絵に組み合わされたサンダルのよう、宣教の使命と熱意をザビエルから受け継いでいきたい」という声も聞かれました。司教主司式により平戸地区の司教主司式により平戸地

2019年WYDパナマ大会(1/22～27)  
ご支援のお願い

日本カトリック青少年司牧部門から以下の連絡が届いています。ご協力を願っています。

## 1. 精神的支援

WYDが青年たちにとって信仰を深める機会となり、キリストの弟子としての固有の召命を見いだすことができるようお祈りください。

## 2. 募金

WYDを実りあるものとするため公式日本巡礼団事務局運営の充実が必要です。募金にご協力ください。2019年2月28日まで受け付けています。

送金方法（振替）  
ゆうちょ銀行（宗）カトリック中央協議会 WYD口座番号 00170-1-315740

## ザビエルの熱意に倣い

## 活動の証し「サンダル」を奉納

今年の「平戸ザビエル祭」は4年に一度の平戸文化センターを会場にしての開催となつた。平戸の信徒、新聞折込を見たという一般の方も加わり、約700人が参加した。

今年のザビエル祭の実行委員会で内容を検討する中で、「皆で作り上げる行事」を目指し、各小教区が聖フランシスコ・ザビエルの宣教活動に倣い、取り組んだ証しを奉納しようということを決められた。

今年のザビエル祭のテーマは、「ザビエルのサンダル」。この10周年を記念して出された結城了悟師（イエズス会）の「いかに美しいことか、山々を行き廻り、良い知識を伝える者の足は」（52・7）を引用し、ザビエルが足を泥だらけにされ、血のにじむような思ひで福音を告げ、宣教者の系譜はザビエル以降もただが信頼すべき方だからです（詩編31・7・9）。主を畏れる人、主の戒めを深く愛する人、まつすぐな人、憐れみ深く貸し与える人、主に従う人は、悪評を立てられても恐れず、その心は固く神様に信頼しています（詩編112・1～7）。穏やかな心で信頼していることにこそ力があり（イザヤ30・15）、神様に信頼すれば確かに生かれ（歴代誌下20・20）、神様がよりどころとなつてくださいとあります（エレミヤ17・7）。そして神様に信頼するなら確信するようになります（二テモテ1・12）。

ほしかば

「喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない」 教皇フランシスコ

宣教のための特別月間を過ごす ①

# 全世界に行き、 造られたすべてのものに 福音をのべ伝えよ

福音をのべ伝えよ (マルコ16・15)

日本二十六聖人記念館 館長 ドメニコ・ヴィタリ

## その当時の福音宣教

私は中学生になったとき、神父になりました。いろんな国に出かけていた宣教師たちが時々学校に来て、彼らの働きの苦労話をしてくださいました。どんな国に行っても苦勞しながら福音を伝えようとしていた彼らの生活は、大変印象深かったです。さまざまな危険を伴いながらも、一生を捧げたその生活ぶりは、青年だった私はとても魅力的でした。

## 現代社会における福音宣教

自分も司祭になつてそのように尽くしてみたいと感じた私は、イタリアではなく、まだキリスト信者がいない国に行って、この宣教師たちと同じように働きたいと強く感じたのです。その夢を実現するために、それまでまったく知らなかつたイエズス会に入会しました。長年の学びを経て、哲学の勉強が終わつてのちに日本へ行きたいと申し出ましたところ、実際その希望通りに派遣されることになりました。その時代は、洗礼を受けてない人々のため福音宣教を行つて、一人残らず全員が單なる言葉だけでなく、命を犠牲にして、その福音宣教にあつたのです。私たちも同じです。いたいたい福音宣教があつたのです。

去年の10月14日に列聖されたパウロ6世が回勅『福音宣教』の中で次のようにその意見を正しております。

「教会にとつて福音宣教とは、たゞ単に宣教の地理的領域を拡大して、いかと私は大変心配しています。浦上四番崩れによる旅の時、津和野に流されたもりちゃんが、どうしてお腹を空かしているのにもかかわらず、イエス様のことを思い、お菓子をもらわなかつたのか。そんな小さな子どもが、どうして強い信仰を持つことができたのでしょうか? その答えは簡単です。それは、家庭の環境の中で得られた信仰でした。理由の一つであると思います。

より多くの人々に布教することだけではなく、神のみ言葉と救いの言語画にそむく人間の判断基準、価値観、関心のまと、思想傾向、観念の源、生活様式などに福音の力によって影響を及ぼし、それらをいわば転倒させることでもあります。(19)

## 家庭で伝えられる信仰

初期のいにしえの信者たちは、福音を難しい環境の中で伝えてきました。「あなたたちの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明ができるように用意しておきなさい」(ペトロの手紙一3・15)。古代教会だけではなく、私たちは日本の潜伏キリスト教の生活の中にも、素晴らしい模範を見ることができます。1614年にキリスト教が禁じられてから、250年、常に深めています。最近のシンodoでも、福音の宣言を一部の人類、一部の階層、一定の文化圏に制限しないようにとの訴えが強くなされました。(50)

イエス様が弟子たちを選んで、自分のそばに置き、いろんなことを悟らせたのは、その弟子自身のた

めだけではなく、彼らが受け入れた信仰やメッセージを世界の人々と分かち合い、神様のことを悟る

ことができるようにするためでし

た。弟子たちは各地に散らばって行つて、一人残らず全員が单なる言葉だけでなく、命を犠牲にして、その福音宣教にあつたのです。

信仰をただじつと持つて、何もし

ないで楽に天国に行き、永遠の樂

みを受けられると思つたら大き

な間違いです。「全世界に行き、す

べての造られたものに福音を伝

えよ」と言われたイエス様は、自

分の家族、自分の国、そして全世

界で、いただいた信仰をあらゆる

人々と分かち合うことを求めてい

ます。

岩下 和樹(33)大鶴山 岩下竜太郎(13)出

汐留 義和(12)浜串山 江田裕司(12)小神学院

谷脇誠一郎(11)佐野裕也(10)曾根根

久志利津男(33)浦治(33)大

高野 盛朗(32)稻村文武(32)

中村 光明(29)山嶋健吾(29)

牧山 倫明(30)大浦和則(33)

川内 強美(30)大神学院

河内和田 之

片岡 仁志(56)長崎修道院

戸村 悅夫(50)本原

関口 七郎(42)長崎修道院

松本 岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教

山添克明(10)曾根志(4)大司教

熊谷志(4)大司教

谷脇誠一郎(11)大司教

片岡仁志(56)長崎修道院

戸村悦夫(50)本原

関口七郎(42)長崎修道院

松本岩下裕志(9)浅尾直通(8)深

岩下裕也(10)中尾

野濱達也(10)中尾

鶴巻健二郎(11)大司教



